

次年度（令和7年度）に向けた改善方策

重点目標1

1 目標

児童の自己肯定感・自己有用感のさらなる向上を目指す。

2 目標設定の背景と具現化への方策

本校児童の自己肯定感・自己有用感は、令和5年度は74%、令和6年度は70%と2年連続で70%台だったが、前年度と比べ今年度は4%下回っている。授業だけでなく、学級での活動、学校行事などにおいて、児童が主体的に活動し、役割を果たす場面を多く創出する。また、役割を果たすまでの過程に注視し、児童の努力や取り組みを教職員や児童同士が賞賛し認めあうことができるように工夫する。

3 数値による指標

今年度の児童アンケートより、「わたしには、いいところがある。」という設問を設け、肯定的回答の割合を80%以上にする。

重点目標2

1 目標

児童がすすんであいさつできるようにする。

2 目標設定の背景と具現化への方策

校内では、教職員が率先してあいさつをする取り組みを行い、成果が表れている。今年度も引き続き重点目標として取り組み、あいさつ運動だけでなく普段から学級でも丁寧な指導を実施し、自分から進んで自然なあいさつができるようにしていく。

3 数値による指標

保護者アンケートの「本校の子どもたちは、元気にあいさつしている。」の設問で、肯定的回答の割合を90%以上にする。

重点目標3

1 目標

キャリア教育の拡充および家庭への周知を行う。

2 目標設定の背景と具現化への方策

令和6年度保護者アンケートでは、「子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている」の結果は49%だった。普段の授業や学校生活の中で、将来の自分のことについて計画的に取り組んでいるが、保護者に浸透していない。学習の軌跡をキャリアパスポートで可視化させ、保護者にも確認をお願いすることにより、家庭への周知を行う。

3 数値による指標

保護者アンケートのキャリア教育に関わる項目について、肯定的回答の割合を80%以上にする。